

検査拡充と並行で

ワクチンは万能じゃない

新型コロナウイルスのワクチンの接種が始まりました。共産党の志位和夫委員長は、現時点で求められる課題について4点を提起しました(18日)。

●安全性など情報公開を

ワクチンの安全性、有効性、副反応などのリスクについての国内外のデータを、迅速かつ徹底的に国民に明らかにすることです。接種はあくまでも個人の自由です。

●検査・減収補てん・補償を同時並行で

「ワクチン頼み」にならず、無症状感染者を含めた検査の抜本拡充、医療機関への減収補てん、雇用と営業を守る補償などを同時並行でしっかり行うことです。



だ液によるPCR検査
日本共産党ホムヘーシヨリ

●支援の抜本的強化を

感染対策とワクチン接種という2つの大事業を担う自治体への支援と医療体制の確保です。そのためにも、地域の医療機関全体に対する減収補てんが必要です。

●ワクチン格差解消を

世界的な「ワクチン格差」の解消のため、日本政府が積極的役割を果たすことです。財力にあかした「ワクチン争奪戦」でなく、平等に供給される国際的な仕組みが必要です。

宣言解除

再拡大防ぐ対策を

日本共産党

新型コロナウイルス対応の緊急事態宣言が関西を含め一部解除になりました。今後、感染の波を引き起こさないよう、政府は科学的根拠に基づいた感染抑制の戦略を示すべきです。

感染者数が減少傾向にある今こそ検査の抜本拡充で、感染追跡と無症状感染者を把握し、市中感染の

実態をつかむべきです。

医療機関や介護施設での定期・頻回検査でクラスター発生を抑えるとともに、医療体制強化へ医療機関への減収補てんが必要です。

宣言解除に伴う協力金減額はやめ、事業者の実態に合わせた支援を行うべきです。

遺骨眠る土砂 基地に使うな



沖縄県名護市辺野古

沖縄の歴史への敬意ない菅政権

菅政権は、沖縄・辺野古の米軍新基地建設で、埋め立て土砂の7割を戦没者の遺骨が残る本島南部から調達しようとしています。戦没者への冒瀆(ぼうとく)です。

国会で日本共産党の赤嶺政賢衆院議員が、「戦没者の無念と遺族の心情に寄り添い、中止を指示すべき」と追及。首相は「南部で採取する場合は遺骨に十分に配慮するよう求める」と述べるのみでした。

遺骨は土と同じ色で判別が難しく、重機で掘り起こす業者が遺骨に気づくとは限りません。菅政権には沖縄の歴史への最低限の認識も敬意もありません。